

高校生、大学生（鹿大生以外も可）、社会人
誰でも参加 OK！

ハブとしての大学



登壇者

松本健太郎（獨協大学教授）

聞き手・司会

太田純貴（鹿児島大学准教授）

2025 **1.28** (火) 14:30~16:40

鹿児島大学郡元キャンパス法文学部 1F ラーニングcommons1

地域と学生
の結節点として

一般公開
参加費無料
申込不要

令和6年度地域マネジメント教育プロジェクト「地域と現代文化との関わりを発掘・検証しその可能性を探究するプロジェクト」

2024年度の地域マネジメント教育研究プロジェクトとして、「ダンスと地域とまちづくり」「デザイン×地域×アート」「イラストとアートから考える地域と多文化主義」の三つをこれまでに開催しました。今年度最後の関連イベントとして、映像記号論・デジタルメディア論・観光コミュニケーション論を専門とする研究者・松本健太郎さん（獨協大学）をお呼びして、大学と地域と社会の関係を具体的な事例を通して考えるトークイベントを開催します。本トークイベントはこれまでのトークイベントの総括的な側面を持つと同時に、人文科学・社会科学に関連する研究の手法・視点が地域とどのように結びつく（結びつき得る）のかということを考えるきっかけにもなると思われます。たくさんの方のご参加をお待ちしております。

登壇者紹介



松本健太郎 Matsumoto Kentaro

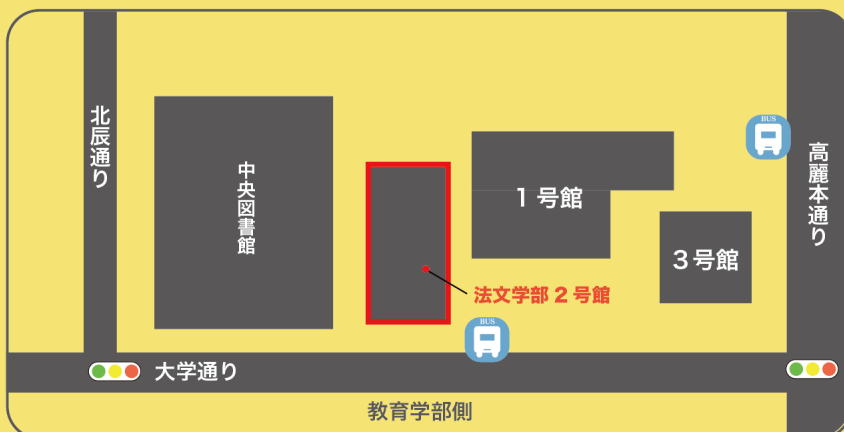
専門は映像記号論・デジタルメディア論・観光コミュニケーション論。国際基督教大学卒業後、京都大学大学院に進学し博士号（人間・環境学）を取得。現在は獨協大学教授、西安工程大学客員教授などをつとめる。また、学会活動としては、観光学会理事・集会委員長、日本記号学会理事・編集委員長、日本コミュニケーション学会理事・学術局長を担当。最近では「デジタル写真」「デジタルゲーム」「デジタルマーケティング」のほか、「キャラクター」「テーマパーク」「コンテンツの越境的流通」などに興味をもつ。

発表内容 大学と社会をかきまぜる 都心の大学における地域連携型 PBL の挑戦

発表者が前任校の二松学舎大学で開設に関与した都市文化デザイン学科（2017年～）における地域連携型 PBL（Project-Based Learning）——沖縄県本部町における「学生映画コンテスト in 瀬底島」および「ウィキペディアタウン」プロジェクト、岡山県倉敷市における体感型推理ゲーム「刑部大輔の事件簿」および「観光 PR 動画制作」プロジェクト、千葉県柏市における「柏高島屋ステーションモール活性化」プロジェクト——を事例として紹介しつつ、学生と地域それぞれの視点を架橋する大学の今日的な役割について再考することにある。上記プロジェクトを学生たちと共にすることで、研究上の関心を、ゲーム研究へと、さらには観光研究へとシフトさせてきた経験をもつ。その経緯を振り返りながら、とくにメディア研究やコンテンツ研究といった領域において、大学と社会がいかにして接点を見いださうか、という点についても考えてみたい。

アクセス

2号館は1号館に隣接しています。1号館を目指してお越しいただき、1号館内の案内図をご確認ください。
※駐車スペースには限りがあるので、公共交通機関でご来場ください



問い合わせ

鹿児島大学法文学部人文学科

太田純貴 (yota@leh.kagoshima-u.ac.jp)